

【日商簿記検定 3 級】貸倒引当金 仕訳問題

1. 得意先に対して当期に掛売りした代金¥160,000 が回収不能となったため、貸倒れとして処理した。なお、貸倒引当金の残高は¥0 である。
2. 決算にあたり、売掛金の残高¥300,000 に対して 10%の貸倒れを見積もり差額補充法により、貸倒引当金を設定する。ただし、貸倒引当金の残高が¥5,000 ある。
3. 得意先に対する売掛金(前期販売分)¥15,000 が貸倒れとなった。ただし貸倒引当金の残高が 20,000 円ある。
4. 決算に当たり、売掛金の残高¥400,000 に対して 5%の貸倒れを見積もった。ただし貸倒引当金の残高が¥30,000 ある。
5. 得意先に対する売掛金¥48,000(前期販売分)が貸倒れとなった。ただし貸倒引当金の残高が¥35,000 ある。
6. 翌期になって前期に貸倒として処理していた売掛金 ¥48,000 のうち ¥6,000 を現金で回収した。